

濱谷 一梅（はまや・かずうめ）

1、プロフィール

小説『鮫吉物語』・『恐山麓寛政戯譚』を刊行。F. Lawton著『オーギュスト・ロダンの生涯と作品』の翻訳により、平成 11 年度青森県文化賞を受賞。

<生没>

1926(大正 15)年4月 10 日～2010(平成 22)年8月 27 日

<代表作>

- ・『鮫吉物語』(昭和 46 年)
- ・『恐山麓寛政戯譚』(平成4年)
- ・『吏員日記』(昭和 49 年)

<青森との関わり>

1926 年(大正 15 年)青森県下北郡大湊町(現在のむつ市)に生まれる。

2、作家解説

大正 15 年(1926 年)青森県下北郡大湊町(現在のむつ市)に生まれる。旧制野辺地中学校を経て、昭和 23 年慶応義塾大学経済学部を卒業。卒業と同時に帰郷。大湊町役場に勤務するかたわら、経済史の研究に手をそめる。

また、後進の指導のために「濱谷英語塾」を開塾。塾生からは多くの教員の他に、中世史の研究者(富沢清人)や美術史家も育った。

昭和 27 年、「明治年間における下北地方の経済」を執筆。昭和 34 年、むつ市役所に勤務。総務課長・収入役・助役を務める。

昭和 46 年、「文芸あおもり」に連載していた小説『鮫吉物語』(小説「鮫吉物語」刊行委員会・刊)を出版。在京の映画関係者から高い評価を得た。

昭和 49 年、14 年間に及ぶ市役所勤務の詳細を極めた『吏員日記・上下～つとめつとめて十四年』発行。個人の日記にとどまらず、むつ市の草創期に貴重な資料となった。

平成元年、かねてよりの会津八一研究を「一通の書簡～八一と武四郎に言寄せて～」として書き始め、それは碌山美術館報に場を移して、「いま、なぜ喜多武四郎か」(平成3年、「碌山美術館報 12号」となり、さらに小説「山茶花」(彫塑家喜多武四郎の青春)へと発展した。

平成4年には、「しもきた文化」に16年にわたって連載した『恐山麓寛政戯譚』が完結。下北文化社の手により出版された。

平成11年には、碌山美術館所蔵のF・Lawton著『オーギュスト・ロダンの生涯と作品』を翻訳し、その功績によって青森県文化賞を受賞した。

平成12年、『ロダンの恋』(フレデリック・V. グランフェルト著)を上梓。最晩年に至るまで、翻訳・研究と精力的な活動を展開した。

3、資料紹介

○『恐山麓寛政戯譚』(おやまのふもとのものがたり)

図書

1992(平成4)年2月23日

175 mm × 164 mm(箱入)

同人雑誌「しもきた文化」に連載された小説を、下北文化社が編集発行した712ページに及ぶ長編小説。寛政年間に下北半島を訪れた菅江真澄をモデルに展開される時代小説で、主人公「小走りの鰻太」の活躍が痛快である。